

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



ウィメンズブックス

New25号 2007年5月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

巻頭言 『産むこと、産まないことをめぐって』 荻野美穂	(1)
最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています	(2)
ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です	(13)
HOT・FILE	(14)
編集長の著者インタビュー 『少女』の社会史の著者 今田絵里香さんに聞く	(15)
ウィメンズブックスストア TOP5 (2・3・4月)	(16)
Women's Books からの風 『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです	(16)

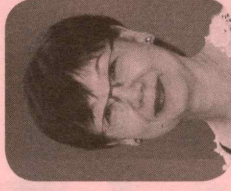
(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

巻頭言

産むこと、産まないことをめぐって

大阪大学大学院文学研究科教員

荻野 美穂



今年はまだ3分の1が過ぎたところだが、産むこと、産まないことをめぐる騒動がやたらに多いという印象がある。まず1月末に柳沢厚労相が女を「産む機械」に例え、「一人頭でがんばってもうしかかない」と発言して、非難の一斉射撃を浴びた。この人はご丁寧にもその後、結婚したい、子どもを2人以上持ちたいと願う若者は「健全」だと発言して、またまた物議をかもししている。

一方、「離婚後300日以内に生まれた子は前夫の子」と推定する民法772条の規定が実情に合わないとして見直される予定だったが、長勢法相が「貞操義務、性道徳(女の側だけの!)」を理由に反対し、今国会での法案提出が見送られた。男は離婚後すぐ再婚できるのに対し、女には6ヶ月と定められていた再婚禁止期間(民法733条)の短縮も、自民党保守派の反対で頓挫してしまった。

また、昨春秋に報道されてから新聞、テレビ等々で賛否の議論が続いていた熊本市慈恵病院の「赤ちゃんポスト」は、4月に市が設置を許可し、5月1日に完成を見た。育てられない子の中絶したり殺すよりはと設けられたものだが、「育児放棄を助長する」と批判も多かった。

こうした報道を見ていると、政府や世間が少子高齢化だ、出生率を上げなければと騒いではいても、女なら誰でもどんな産みさえすれば歓迎されるわけではないことがよくわかる。未婚での出産も婚外子もだめ、きちんと法律婚をしたうえで、「夫の子」だけを量産し、自助努力で育ててほしい——「一人頭何人でもがんばる」とは、そういう意味なのだ。

だが、たとえそうした条件を満たしたとしても、女たちが安心して産みやすい条件が整っているかといえば、とんでもない。産科医不足、病院の産科閉鎖や出産取扱の停止、助産所への規制強化による廃業のおそれなど、出産の現場にはいま問題が山積している。そのため妊娠したら急いで病院に分娩予約をし、産み場所を確保しなければならぬのが、人気のある病院ですでに空きがないところさえあるという。

もっと産んでと言うのなら、こうした事態の早急な改善こそ厚労相のやるべき仕事でなくてはならないだろう。

ところで3月には、2003年に自分たちの受精卵を使ってアメリカで代理出産により双子を得た向井重紀・高田延彦夫妻に対し、子どもたちの日本国籍を認めないという最高裁判決が出た。日本の法律では、「母」とは出産した女性のことを指すからだという。その一方、4月13日には毎度お騒がせの長野県の根津ハ絃医師が、実母が娘の代わりに「孫」を代理出産する試みを再度実施したこと、さらに不妊夫婦の受精卵で代理出産を引き受けてくれるボランティア女性の公募開始を発表した。28日には、全国の不妊クリニックでつくる「日本生殖補助医療標準化機関」が、友人や姉妹からの提供卵子と夫の精子を体外受精させて妻の子宮に入れる「治療」の実施を認めたと報道された。

生殖技術に頼るのは、子どもを持つことに熱心な人々だ。国は出生率アップのためにはこうした出産も選択肢として認めていくのか、それとも「普通の家族」との違いを理由に抑止をかけるのか。生殖補助医療法の制定も含め、いつまでも判断停止を続けることは許されないだろう。

いまの日本が子どもを産むことにかんして、いびつな状況にあることは確かだ。けれどそんなややしくなくない環境の中でも、女たちはやはり妊娠し、喜んで、あるいは悩みながらも、出産や育児という新しい経験に向き合っていく。そうしたときに読んでもらえればと、友人たちと一緒に「産む・産まない・産めない〜女性のからだで生きた読本」(松岡悦子編、講談社現代新書)という本を出した。産むことは、女にとって義務ではない。でも産む以上はできるだけ楽しめる方が良し、そのためには自分のからだやいろいろな産み方についての知識を持ったうえで、その経験に臨んでほしいと思う。

(10ページに「産む・産まない産めない」の紹介があります)

最新刊情報

フェミニズム・女性学 …… (2)
子育て・教育 …… (4)
法律・政治・政策 …… (5)
労働・仕事 …… (5)
家庭・家族・衣食住 …… (6)

こころ・癒し …… (7)
セクシュアリティ …… (8)
文学・エッセイ・芸術 …… (9)
からだ …… (10)
セクハラ・暴力 …… (11)

女性史・歴史 …… (11)
自伝・評伝 …… (12)
平和・開発・エコロジー …… (12)
高齢・福祉 …… (13)
資料・雑誌 …… (13)



〔フェミニズム・女性学〕

女性解放をめぐる占領政策 双書ジェンダー分析16

上村千賀子/著 勁草書房 2007年2月 3465円

女性解放をめぐる
占領政策
上村千賀子



日本の女性政策に大きな影響を与えた連合国軍総司令部の占領政策の目的や方法をめぐって分析した力作。GHQ上層部と現場の女性担当者たち、日本政府上層部と日本の女性指導者たちの政治的力学の絡み合いにもまれながら、戦後日本の女性政策が動いていく様子が、様々な資料やインタビューを通じて解き明かされている。GHQの女性政策は当時のアメリカのそれをも超えた、先進的なものだった。

地図でみる日本の女性

武田祐子、木下禮子/編著

中澤高志、若林芳樹、神谷浩夫、由井義通、矢野桂司/著
明石書店 2007年3月 2100円



未婚率、女子労働力率、保育サービス、寿命と死因など28の項目について、地図やグラフ、表にし込んでわかりやすく解説。「何が」どこで」おきているのか」が、一目瞭然になる。『地図でみる世界の女性』の姉妹編。地図をながめることで、新しい発見が生まれることもあるだろう。

脱暴力へのマトリックス 戦後・暴力・ジェンダー2

大越愛子、井栞碧/編著 青弓社 2007年3月 2940円



グローバル化した暴力の連鎖をどう断ち切るか。フェミニズムの視点から、その可能性を実践的に展望する。第一部では、9.11テロへの過剰反応とダーバン会議への過少反応に言及しつつ、脱暴力に向けた様々な思想実践に言及。第二部では、南京大虐殺に関する歴史記述などの様々な表象を取り上げ、暴力の痕跡を抉り出す。現場の実践に根ざした視点は鋭い。

リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルス

谷口真由美/著 信山社 2007年4月 6300円



リプロダクティブ・ライツとリプロダクティブ・ヘルスという概念の内容、その概念を使う意義を、国際法学の立場から明らかにした本。国際会議で使われるようになり、日本の政策にも取り入れられつつある概念であるが、まだまだ深化の途上。しかし、重要で意義ある概念であることは確かであろう。

メキシコ・ワスデカ先住民農村のジェンダーと社会変化 フェミニスト人類学の視座

山本昭代/著 明石書店 2007年2月 7560円



温暖多雨で肥沃な土地に恵まれたメキシコ・ワスデカの先住民。しかし、ここにもグローバル化の波が急速に押し寄せ、社会は大きく変動している。その変化の中で、ジェンダーはどう変わり、どうなっていくのか。一年間にわたる現地での調査、取材を経て、この民族誌が出来上がった。「ジェンダーと土地/共同体」家を建てる女たち「村のシンマルザーたち」など、興味深い章立ての考察が並ぶ。

お世継ぎ問題読本 どこへ行く？女性天皇論争

佐藤文明/著

緑風出版 2007年3月 1890円



男児誕生でいったんは下火になったものの、いずれは再燃するであろう「天皇家」の「お世継ぎ問題」。20のQ&Aで、どう考えたいかを探る。問題は「女性天皇問題」ではなく「お世継ぎ問題」であると、キツパリ。

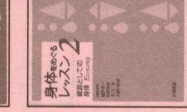
身体をめぐるレッスン1、2、3、4

鷲田清一、荻野美穂、石川准、市野川容孝/編著 岩波書店



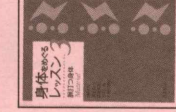
夢みる身体

2006年11月 2835円
今の時代、身体は限りなく観念的になり、作りあげられている。私たちが身体に貼り付けたそのような「幻想」は、どういうかたちで私たち自身の生を束縛するのか。その彼方には、何があるのか。



資源としての身体

2006年12月 2835円
生殖、労働などを通して身体は「運用」され、血液や卵子といったパーツとして配分される。「身体をめぐるレッスン」第2巻では、持ち主や国家が身体を「資源」とみなすメカニズムにせまっている。



脈打つ身体

2007年1月 2835円
私たちは、「自分の身体は自分のもの」という感覚を持っているけれど、その一方で「身体はその「持ち主」の統御を逃れ、自律的に動くものでもある。本巻で扱うのは、そうした身体の「有限性と自律性」。



交錯する身体

2007年2月 2835円
感情の力学によって結ばれ、切断される身体。身体は、むき出しで存在するのではなく、家族などの「親密性」の中で存在する。それがゆえに、持ち主や家族が発揮する特別の感情によって翻弄される。「安らぎと苛立ち」「幸と不幸」「尊厳と恥辱」などなどの両義性の中で生きる身体の様相。

月刊社会教育 No.617

「月刊社会教育」編集委員会/編
 国土社 2007年3月 700円
 特集に「ジェンダーと人権」を組んでいる。「ジェンダーの憲法学」(若尾典子)、「社会教育におけるジェンダー平等への取り組み」(千葉悦子)、「なくしてはならない頼れる女性センターに」(青木玲子)など

家族 ジェンダーと自由と法

水野紀子/編 辻村よ子/監修
 東北大学出版会 2006年11月 2310円
 東北大学21世紀COEプログラムジェンダー法・政策研究叢書第6巻のテーマは、「家族」をめぐる法と政策。第一章:家族とジェンダー、第2章:ヨーロッパにおける現代家族の展開、第3章:日本における家族法の展開、第4章:家族をめぐる法と規制

和解のために 教科書・慰安婦・靖国・独島

朴裕河(パクユハ)/著 佐藤久/訳
 平凡社 2006年11月 2310円
 日本と韓国の間でもなお葛藤している歴史の問題に、ナショナリズムを超えた切り口で取り組もうとしている。巻末に上野千鶴子の解説と日韓関係年表も。

アジアの家族とジェンダー 双書ジェンダー分析15

落合恵美子、山根真理、宮坂靖子/編
 勁草書房 2007年2月 3675円
 日本からの11人と韓国、中国、タイからの4人の研究者からなる「アジア諸社会におけるジェンダーの比較研究」調査研究から生まれた報告書。アジア諸国のケアと労働をめぐる社会制度を分析して興味深い。

おとこの目からなみだ おんなの目からうるこ あなたの明日が変わります

日立市 日立市 2005年10月 1100円
 日立市が2004年に全国公募した「男女が織りなす暮らしの奮闘記」には、300編以上の応募があった。本書はそのうち100編を選んだ作品集。

辺縁のアジア <ケガレ>が問いかけるもの

阿部年晴、綾部真雄、新屋重彦/編 明石書店
 2007年2月 4095円
 不浄や差別をめぐる状況が変わり、新たに生み出されるケガレもあるという。民俗学・社会学における伝統的な「ケガレ」を日本、台湾、韓国、マレーシアなど、変容する21世紀アジア社会の中で考察。第二部では、巫女とケガレ・韓国・濟州島と珍島の調査から、など。

なぜ男は女を怖れるのか ラシーヌ「フェードル」の罪の検証

アラン・リビエツ/著 千石玲子/訳
 藤原書店 2007年2月 2940円
 義理の息子と夫の二人に対する恋のはざまで自殺してしまふ、有名な「フェードル」の物語を検証。なぜフェードルが罪を負ったのかを「女性の欲望への恐怖と抑圧」という点から解き明かす。

欲望問題

伏見恵明/著 ポット出版 2007年2月 1575円
 「ゲイ・プロパメントの先駆け」として活動してきた著者が問う問題作。社会を対立する敵としてではなく「調整する」場としてみることを主張。もろもろの差別に関する考察を「差別問題」としてではなく「欲望の問題」としてみることを主張。

女性性を変える農業 農村 日本農業の動き157

農政ジャーナリストの会/編 農林統計協会
 2007年2月 1260円
 農村からの風がふいている。地域から自分たちの村を変えようとネットワークし、情報発信し、起業した女性たちからの報告。



女性学 2006 vol.14

日本女性学会誌14号編集委員会/編
 日本女性学会/発行 新水社/発売
 2007年4月 2500円
 特集は「ジェンダーをめぐる暴力とトラウマ」宮地尚子、大越愛子、木村涼子など。他に投稿論文として「性的自由と買売春」(下地真樹)「英国における第二波フェミニズムへの起点」(富永貴公)など

ジェンダー人類学を読む 地域別・テーマ別基本文献・レビュー

宇田川妙子、中谷文美/編
 世界思想社 2007年3月 3150円
 インドネシア、タイ、インドなど8地域、開発援助、国際移動など6テーマに分けて、ジェンダー人類学の今までの蓄積を整理し、課題を探っている。

兵士になった女性たち 近世ヨーロッパにおける異性装の伝統

ルドルフ・M・デッカー、ロッテ・C・ファン・ドゥーポール/著
 大木昌/訳 法政大学出版局
 2007年4月 2730円

17～18世紀のヨーロッパには、男装して軍隊に入ったり、女性に求愛したり「男性」として生きた女性たち」が多くいたという。当時の裁判記録や文学資料などから、そうした女性たちの姿を追ったのが本書

中世日本の仏教とジェンダー 真宗教団・肉食夫婦の坊守史論

遠藤一著 明石書店 2007年4月 6090円
 「坊守」を議論の中心にすえ、第一部では、真宗のジェンダー構造について宗祖である親鸞とその家族・集団を題材に分析。第二部では、南北朝・室町期の真宗における「女性と仏教」にふれている。

消費社会から格差社会へ 中流団塊と下流ジュニアの未来

三浦展、上野千鶴子/著 河出書房新社 2007年4月 1470円
 『下流社会』でブレイクした三浦展と上野千鶴子のトーク。この2人には、その経歴に意外な接点があったようだ。トークのテーマは、中流団塊と下流ジュニアが織りなす現代の諸相。団塊の親からその子へとつながる社会の流れを「消費社会から格差社会へ」と表してみせるわけだが、お話は、モナロ、エンドレス。

国際法・国際関係とジェンダー 東北大学21世紀COEプログラム ジェンダー法・政策研究叢書

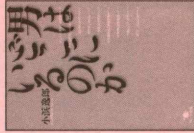
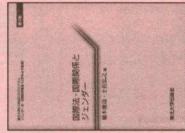
植木俊哉、土佐弘之/編
 東北大学出版会 2007年2月 2310円
 東北大学21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」が刊行するジェンダー法政策研究叢書第7巻のテーマは、「人間の安全保障」。ジェンダーをめぐる国際法、国際関係法について、若手を中心にした精力的な論文が並ぶ。

国民道徳とジェンダー 福沢諭吉・井上哲次郎・和辻哲郎

関口すみ子/著
 東京大学出版会 2007年4月 2625円
 福沢諭吉、井上哲次郎、和辻哲郎、丸山真男という日本の知の系譜において、「国民道徳」はどう取られ、その中でジェンダーはどのような機能を果たしていたかを論じている。

男はどこににいるのか

小浜逸郎/著 ポット出版 2007年4月 2625円
 絶版状態となっていたが、今回復刊された。初刊は1990年、フェミニズムの言説が本格的に力を持ち始めた頃。男女の性差や非対称性を本質論としてとらえたこの本は、ある部分で「反フェミニズム」といわれたようにも思う。ジェンダーフリー論争、バックラッシュを経た今は、どう読まれるか？



〔子育て・教育〕

子宝と子返し 近世農村の家族生活と子育て

太田素子/著 藤原書店 2007年2月 3990円



近世農村の人々は、「間引き」という言葉ではなく「子返し」「押し返し」ということばを使っていたという。確実な避妊技術がなかった時代、「子返し」は出生コントロールとしての意味を持っていた。そして、育ってゆく子どもたちには愛情を注ぎ、仕事をしこもうという趣旨を含んでいたといふ。

京都子連れパワーアップ情報

NPO法人オフィスパワーアップ
(特)子育て支援コミュニティおふいすパワーアップ
2007年1月 1050円
子連れでお出かけ80軒 子どもの習い事など

大切に育てた子がなぜ死を選ぶのか？

田中喜美子/著 平凡社 2007年2月 735円
陰惨な「いじめ」は、昔からはびこっている。しかし、21世紀の今は、昔にはなかった、より絶望的な状況にあるという。それは、いじめられた子どもたちが死に向かって傾斜していくこと。こうした子どもたちの生きる力の衰弱は、何にあるのか？ 母子密着型の日本の子育てとそれを助長する政策をなんとかしなければ。



おっぱいといとはん 春秋暮らしのライブラリー

竹中恭子/著 堀内勁/監修 春秋社 2006年12月 1680円
「よこはま自然育児の会」が主催している「よこはま母乳1110番」への相談から生まれた本。母乳、ミルク、離乳食について述べている。

犯罪といじめから子どもを守る幼児期の生活習慣 子どもたちの幸せな未来ブック第5期②

ほんの木/編 ほんの木 2007年2月 1575円
「人を信頼する子になってほしいけど、犯罪にまきこまれるのでは？」「外で遊んでほしいけど、犯罪に会うかも」。こうした子育てと安全、防犯についての戸惑いに對し、どういう心構えで何をしたらいいかについて書いている。

現場に生きる子ども支援・家族支援 ケース・アプローチの実践と活用

小川智宏/著 生活書院 2007年1月 2100円
児童相談所、一時保護所で子どもたちやその家族とかわわってきいた著者が、家族援助の方法について、ツールの開発だけではなく、もっとケースによりそうことや経験の積み重ねが必要であることを訴え、事例をもとに援助者に必要なことを問う。

10代からの子育てでハッピーアドバイス

明橋大二/著 太田知子/イラスト 1万年堂出版 2007年3月 1000円
ここにあげられている「10代の子どもにもに接する10ヶ条」はごくごく当然のこと。でも、やってみると案外むずかしい。

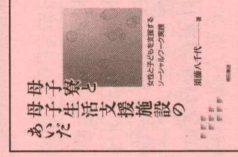


「あたりまえ」が難しい時代の子育て支援 地域の再生めざして

小川清美、土谷みち子/著 フレーベル館 2007年2月 1260円
東横学園女子短期大学内に、大学立としては初めてできた子育て支援センター「びっぴりからの報告。0歳から72歳までの子どもたち、お母さんたち、学生、地域の人たちが集い、「子どもを真ん中に、皆でワイワイやりながら一緒に子育てを楽しむ」社会をめざしている。

母子寮と母子生活支援施設のあいだ 女性と子どもを支援するソーシャルワーク実践

須藤八千代/著 明石書店 2007年2月 1890円



根拠とする法律の文言が従来の「保護」「指導」から「支援」「援助」に変わった「母子寮」であるが、実質として女性の自立を価値づけた新しい思想を内包できているか。DV被害者の支援計画に組み込まれた社会資源として、機能できているか。長年の実践をもとに、フェミニズムとソーシャルワークの立場から「母子寮」を論じている。

子育て支援&子育てネットワーク

大豆生田啓友/著 フレーベル館 2007年3月 1260円
子育て支援や子育てネットワークについて、基本的な50のキーワードをあげ説明

自立クライシス 保健室からの思春期レポート

金子由美子/著 岩波書店 2007年3月 1785円
長年、中学校の養護教諭をつとめる著者が、保健室からみた子どもたちの様子をレポート。大人の社会がこんな状態で、一体誰が子どもたちの自立を支えるのか？



女性を幸せにする大学 神戸女学院のアティテュード

現代高等教育問題研究会
プレジデント社 2007年3月 1600円
名門女子大学である神戸女学院の「リベラルアーツ教育」を紹介。職業に連結する大学・学部の人気が高い中、人間教育、人格教育にこだわっている大学だ。もっと深く考察したら、多論点が含まれているテーマではあるが。

いじめ問題とどう向き合うか 岩波ブックレットNo695

尾木直樹/著 岩波書店 2007年3月 504円
第一章「いじめをどう克服するか」 第二章「いじめを考える」 第三章「いじめをどう克服するか」

むすんでひらいて編みなおして 関係づくりを育む子育て支援

(財)日本女性学習財団 (財)日本女性学習財団 2007年4月 500円
「関係づくり」の視点から子育てを考え、当事者のエンパワメントをはからうという啓発冊子が(財)日本女性学習財団が出版された。



フランス父親事情

浅野素女/著 築地書館 2007年4月 1890円
20年余りパリで暮らし、子育てしてきた著者がみたフランスの父親の姿が等身大で紹介されている。著者は、「日本よりフランスが進んでいる」と言っているわけではない。また、権威的父親像に居ることを推奨しているわけでもない。激動している家族の姿を背景としつつも、その日常の中で、「父親」になろうとしているフランスの男性たちを紹介している。

子育てママのネット活用生活 ネットがあれば、もうひとりじゃない！

安彦麻里絵、池田るき、都あきこ、高瀬志帆、なとみみわ、河上弥生、佐々木千絵/著 幻冬舎メディアコミュニケーションズ/発行 幻冬舎/発売 2007年1月 1155円
7人の漫画家が自身の「子育て生活」をマンガでつづっている。子育てママのための地域密着情報サイトである「地域情報ポータルサイトQep」が企画。子育てママにとって、ブログやITは有効な子育て支援の場であるようだ。

〔法律・政治・政策〕

人やまちが元気になるファシリテーター入門講座 17日で学ぶスキルとマインド



人やまちが元気になるファシリテーター入門講座
17日で学ぶスキルとマインド
ちよんせいこ/著
解放出版社 2007年2月 1575円
会議や講座などにおいて、一人一人の個性を活かしながら、生産性の高い議論や人間関係づくりを進めるファシリテーターになるための入門書。著者の体験した事例が豊富。

ジェンダーの法律学 第2版

金城清子/著 有斐閣 2007年4月 1890円



ジェンダー法学のスタンダードテキストとあってよい。著者は『法女性学のすすめ』(1983年)で、この分野のパイオニアとなった人だが、本書の序章に「法女性学からジェンダーの法律学へ」とあるように、この分野の進化も著しい。最新の法改正や統計情報を入れて、今回第2版が出された。

指定管理者制度とNPO 事例研究と指定獲得へのマネジメント

柏木宏/著 明石書店 2007年1月 2940円
池田市の児童文化センターほか大阪、東京、埼玉、名古屋、福岡の指定管理者導入の公共施設について、その導入過程や課題を指定管理者にインタビュー。アメリカのNPO制度にも言及しつつ、指定管理者制度の課題やNPOの事業展開などを詳しく述べている。

そのとき、赤ん坊が私の手の中に みんな、聞いてくれ これが軍隊だ！

憲法9条メッセージ・プロジェクト/編
憲法9条メッセージ・プロジェクト 2006年5月 315円
元アメリカ海兵隊員アレン・ネルソンの講演録。憲法9条のすばらしさを訴えている。

NPOの新段階 市民が変える社会のかたち

末村祐子/著 法律文化社 2007年1月 1890円
大阪経済大学オーブンカレッジの講義をもとに編まれた。市民社会の担い手として役割が期待されているNPOについて、様々な角度から論じられている。



いじめと現代社会 「暴力と憎悪」から「自由ときずな」へ

内藤朝雄/著 双風社 2007年2月 1890円
社会に蔓延する「弱いものいじめ」の構図を示し、その処方箋を提示。「教えて治に至る」「タイプの全体主義的社会では生活の質は獲得されず、「生きがたさ」もなくなると説く。宮台真司、本田由紀の対談も収録。

法律時報 2007年 79巻3号

日本評論社 2007年3月 1500円
特集：雇用平等法制の新展開。「男女雇用機会均等法の論点」(木下潮音、中野麻美他)「男女雇用機会均等法の改正と今後の課題」(小畑史子)など。



子どもの権利擁護と市民の役割 格差社会からつながる社会へ

(社)子ども情報研究センター/編
田中文子、堀正嗣/編著
明石書店 2007年3月 1050円
(社)子ども情報研究センターの設立30周年を記

こう変わる！ 男女雇用機会均等法 Q&A
岩波ブックレット No.694

日本弁護士連合会/編
岩波書店 2007年2月 504円
今回の男女雇用機会均等法改正のポイント、役立て方、課題について、わかり易くコンパクトにまとめてある。まずはこれを読んで。



ワーキング・プア アメリカの下層社会

ディヴィッド・K・シプラー/著
森岡孝二、川人博、肥田美佐子/訳
岩波書店 2007年1月 2940円
世界で一番豊かな国アメリカで働く貧困層「ワーキングプア」の実態レポート。全米ベストセラーになった本。記者は、「明日の日本を今日のアメリカにしたいため」にというけれど、かなり似てきている。



出生児数決定のメカニズム

ナカニシヤ出版 2007年2月 4830円
アンケート調査結果をおまえ、人々は産み育てる子どもの数をどのようなプロセスを経て決定するのかを考察。子育て支援メニューがそろいつつある今、支援の質も問題にしているという主張。

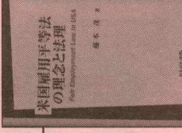


あごら310号 新宿発

BOC出版 2007年3月 1260円
特集：地方選-私が立ちます。地域と平和を守りぬきます。統一地方選挙にチャレンジする人たちの紹介

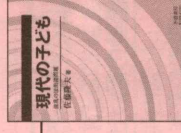
米雇用平等法の理念と法理

藤本茂/著 かもがわ出版
2007年3月 3990円
米国の雇用平等法の理念と法理の展開について考察した研究書。雇用平等法制定の歴史的社会的背景から平等法の理論枠組み、司法審査まで。



現代の子ども 波乱の法的諸問題

佐藤隆夫/著 不磨書房 2007年5月 2730円
児童虐待、少年事件の頻発、民法上の非嫡出子問題、生殖革命、赤ちゃんポストなどによって惹き起こされた様々な子どもの法的な問題は、まさしく「波乱」そのもの。本書は、それに対して鋭い問題提起をしている。日本で導入されたばかりの赤ちゃんポストのもとになった、ドイツのベビークラッペンという制度も紹介。



〔労働・仕事〕

男女均等の人事管理 改正男女雇用機会均等法への対応 一問一答

荻原勝/著 中央経済社 2007年3月 2730円
2007年4月1日施行の改正男女雇用機会均等法の内容を解説。人事管理や就業規則の変化も紹介している。

キャリア・イノベーション 仕事生活の問い直しがつくる個性尊重の組織文化

し・べイリン/著 三善勝代/訳 白桃書房 2007年2月 2940円
米国で定評のあるワークライフバランスに関する本が訳出された。業績向上に結びつく組織運営の基本は、メンバーそれぞれの個性が発揮できる環境をつくり、ステレオタイプをやめることが必要で、そのためには、労使双方がキャリア形成の思い込みを排しなくてはならないというのが主張。米国での20年の調査をもとに書かれた本。米国と10～15年のタイムラグがあるといわれる日本の参考にも、おおいになるはず。

Q&A「女性労働者の労働法」実務ハンドブック

布施直春/著 セルバ出版 2007年1月 2730円
女性労働者に関する労働法のポイントが理解できる。

女性の働き方暮らし方ガイド ワークライフバランス2008

自由国民社 2007年5月 1100円
大判、カラー刷りの「働き方暮らし方ガイド」。ざっと調べてみたいという人のために。

私たちのワークスタイル データとケースで考えるこれからの働き方

崎山みゆき/著 ゆいぽおと/発行 KTC中央出版/発売
2007年3月 1680円
やりたいこと、できること、相手から求められることの三つを満たすことが、仕事を続ける上で大切と、著者。

家族の古代史 恋愛・結婚・子育て



梅村恵子/著 吉川弘文館
2007年3月 1785円

今の典型的な家族の形は、日本の古代社会から存在したわけではない。では、古代の恋と結婚は、家族はどうだったのだろうか。日本的なゆるやかな結婚慣習をもち続けた家族の姿を、結婚・妻の立場・子どもの教育をテーマに具体的に探る。

よくわかる家族葬のかしこい進め方 臨終からお別れ会までの流れ基本ポイント いざというときに役に立つ葬儀後の届け出・手続き

杉浦由美子・河嶋毅/著 大泉書店 2007年2月 1260円
仏式の家族葬、無宗教葬、通夜葬、自然葬などのやり方や進め方を解説している

現場に生きる子ども支援 家族支援 ケース・アプローチの実践と活用

小木曾宏/著 生活書院 2007年1月 2100円
子どもたちの「問題行動」からみえる諸相と向かい合い、「寄り添う」必要性を説く。現場でのケースワークの「見立て」が大切ということで、その実際と活用方法を説明。

家族の変遷・女性の変化

佐藤宏子/著 日本評論社 2007年2月 5880円
農村地域における家族変動や家族関係の変化をテーマに、同一世帯を25年にわたって追跡。いろいろな角度からの調査結果に基づいて、「農村直系家族」における中高年女性の世代間の関係を分析している。

地域労働市場と女性就業

吉田容子/著 古今書院 2007年2月 6510円
「地域労働」市場を、それを構成する労働力としての女性の観点から考察。家事、育児、介護の無償労働が地域の労働市場とどう関連しているのかを、各方面から論じている。

これが女の出世道

とらば一ゆ/著 徳間書店 2007年3月 1575円
「とらば一ゆ」の連載に加筆修正して一冊に。「出世した」女たち35人のキャリアアップ体験録。

ワーク・ライフ・バランスの実践 企業事例に見るその手法と実際

久谷與四郎/編著 日本ラーナーズ協会 2007年3月 1300円
仕事と生活のバランスが取れる働き方としての「ワーク・ライフ・バランス」の多様な取り組み、実践例を取り上げて紹介。まだまだ妊娠、育児への支援という側面が強いが、おおい「ワーク」と「ライフ」の総合的なあり方への追及になってほしいと著者。果敢に取り組む企業が案外多いことがわかった。

仕事も人生もメンターがいればうまくいく

宮崎ゆかり ユウメディア 2007年3月 1575円
メンターとは、優れた指導者、信頼のおける相談相手のこと。単身渡米し、米国で起業した著者が、自らの経験を通して、メンターと出会う大切さ、自分にぴったりのメンターとの出会い方を語る。

女たちは管理職をめざす

西山昭彦/監修 東京ガス西山経営研究所/著
中経出版 2007年3月 1365円
企業はまだまだ男社会。本書は、その中で管理職として上りつめていくためのスキルや考え方を紹介。企業や大学での調査結果、ヒアリングの分析も豊富。



〔家庭・家族・衣食住〕

シングルマザーのための認知・養育費・慰謝料



露木幸彦/著 九天社 2007年4月 1890円

俗にいう「不倫の妻」の立場にたたって、認知、養育費、慰謝料請求や相続の権利、出産、中絶後のアフターフォローなどを、きめ細かくわかりやすく記述。著者は、離婚に特化した行政書士事務所を開業している。

図解でわかる離婚の年金分割のしくみと手続き

三宅恵子/著 日本実業出版社 2007年3月 1470円
2007年4月からの「離婚時の年金分割」。離婚したときの年金はどのうに分られるのか、年金分割の疑問と注意点など、具体例をあげながらの解説はわかりやすい。今、必要ないと思うことも、知識として知っておいてもよいのでは。

結婚した二人のためのソーシャルスキル ライブラリー ソーシャルスキルを身につける3

園田雅代/著 サイエンス社 2007年1月 1417円
夫婦間のコミュニケーションを円滑に行うためのヒント

＜いのち＞と家族 シリーズ比較家族第三期

太田素子・森謙二/編 早稲田大学出版部 2006年12月 3940円
それぞれの歴史や社会の中で、「いのち」はどう位置づけられてきたか。生殖医療の展開により、「家族」の中でいのちが誕生する」という枠組みが崩れてきた。「いのち」を維持する装置としての家族、近代国家と優生思想など、論点は限りなく多く、深い。

離婚と手続き 別れたあとで後悔しない

田中早苗/編 主婦と生活社 2006年3月 1470円

パートナートシップ・生活と制度 結婚、事実婚、同性婚

杉浦郁子・野宮亜紀・大江千束/編著

緑風出版 2007年1月 1785円

ここにいるパートナーシップとは、親密で継続的な家族的な関係をもつ二人の関係のこと。法律婚、事実婚、同性婚カップル、すべて含まれる。そうしたすべての「パートナートシップ」の生活と権利を守るための制度のあり方とは？



家族援助 新版

成清美治・高橋紀代香/編著 学文社 2007年2月 2625円
保育士養成課程のテキストとして書かれた本。家族支援、子育て支援、虐待に対する社会的支援など、ひととおる学べるようになっているので、読み物としてもどうぞ。

よくわかる子ども家庭福祉

山縣文治/著 ミネルヴァ書房 2007年2月 2520円
「子ども家庭福祉」とは、従来の「児童福祉」を脱却し、利用する子どもの立場からの福祉をめざそうとするもの。

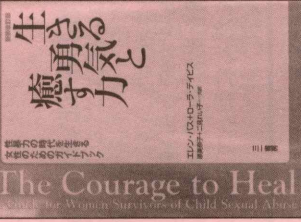
離婚の進め方がよくわかる本

鯉沼希朱・藤原道子/著 ナツメ社 2007年5月 1470円

（こころ・癒し）

新装改訂版 生きる勇氣と癒す力 性暴力の時代を生きる女性のためのガイドブック

エレン・バス、ローラ・デイビス/著 原美奈子・二見れい子/訳 三一書房 2007年2月 5775円



第一版が出たのが1997年。当事者にとって本当に頼りになる本だといわれたこの本、長い間、改訂版の出版が待たれていた。米国のサバイバーによって書かれ、日本のサバイバーによって翻訳された本である。PTSDという概念は少しは知られるようになったが、まだまだやるべきことは多そう。

過食症サバイバルキット ひと口ずつ、少しずつよくなるう

ウルリケ・シュミット・ジャネット・トレジャー/著

友竹正人・中里道子・吉岡美佐緒/訳

金剛出版 2007年2月 2940円

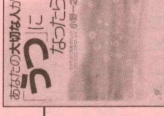
摂食障害治療で定評のある英国モーズレイ病院で過食症の患者と家族のために使われたテキストの翻訳版

こころ相談室へようこそ 11人のカウンセラーが語る、自分の心と上手につきあうヒント

こころ相談.com/編 2007年2月 1575円
「カウンセリングってどんなことをするの？」といった基本的なことや日常のヒントを11人のカウンセラーが紹介する

あなた大切な人が「うつ」になったら

小野一之/著 すばる舎 2007年2月 1470円
家族や職場の同僚、友人等、「身近な人」がうつになった時、どうしたらいい？



自傷行為治療ガイド

B.Wウォルシュ/著 松本俊彦・山口亜希子・小林桜児/訳 金剛出版 2007年3月 3990円

トラウマや乖離について、具体的な治療方法が示されている。自傷行為の定義、初回面接、アセスメント、認知療法、家族療法、薬物療法、

離婚時の年金分割、離婚の方法と手続き、財産、子ども、戸籍、姓の問題などについて説明

離婚のためのらくらく年金獲得術 セカンドライフで損をする人、得をする人

古山直子/著 日東書院 2007年3月 1260円

男と女の離婚格差

石坂晴海/著 小学館 2007年4月 1260円

現代家族のパラダイム事情 直系制家族・夫婦制家族から合意制家族へ

野々山久也/著 東京大学出版会 2007年4月 4515円
サブタイトルにいう「合意制家族」とは、「幼児や高齢者、家庭内弱者たちの存在や人格への配慮、共感がある家族」のこと。直系制から夫婦制へ、そしてさらに合意制へと、21世紀の家族は進化していかなくては…というのが主張。そこへの道筋を、社会学的データを使って描こうとしている。

夫婦学 離婚しない、離婚されないための生活講座

高橋保/著 三一書房 2007年5月 1680円

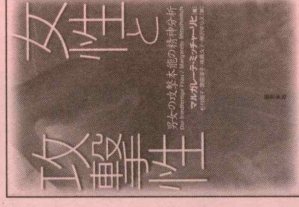
女性と攻撃性 男女の攻撃本能の精神分析

マルガレーテ・ミッチャーリ/著

杉村園子・関田淳子・後藤久子・柳沢ゆりえ/訳

新思泉社 2007年2月 2940円

「女性性は平和的だ」というステレオタイプ化したイメージには、意味はない。「攻撃性」は男女ともにあり、社会化の過程でことなった現れ方をするのである。精神分析の立場から、男女がともにもつ「攻撃性」を分析した本。専門用語がややや難解ながら、「女性史を思い起こして、過去及び現代の範例に目を向け、理性的で客観的なものの見方を生かしていこう」と、女性たちに呼びかけている。



学校での自傷管理方法までを詳細にマニュアル化して書いている。

情緒的自立の社会学

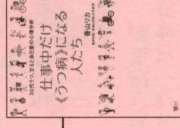
昌中宗一/著 世界思想社 2007年2月 1995円

経済的自立、職業的自立、生活的自立など、一般的にいわれる「自立志向」は疲れるものだ。そして「自立志向」が強まれば強まるほど、こころでいう情緒的自立が遠のいていくのではないかと、著者は警告する。「他者の関係性の中で自己を維持していく」という意味での「情緒的自立」は大切。

仕事でだけ「うつ病」になる人たち 30代うつ、甘えと自己愛の心理分析

香山リカ/著 講談社 2007年2月 1365円

心の病を理由に休職をする人の数が増え続けている。著者によると、30代に、新しいタイプの「仕事だけができないうつ病」が増えているという。これは本当に「病氣」なのか、「甘え」なのか。



子守唄が唄いたくて 不妊を理解して対処するために

ジャネット・ジャフエ、マーサ・O・ダイアモンド、デュービット・J・ダイアモンド/著

小倉智子/訳 高橋克彦・平山史朗/監修

パベルプレス 2007年2月 1785円

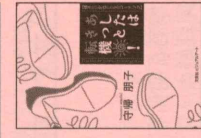
なぜ不妊はつらいのか？ まぜ傷つくのか？ 自身も不妊に悩んだ心理学者が、不妊をどう考えたいのかについて、述べている。

アダクションと家族 vol.23 No 4

家族機能研究所/編 ヘルスワーク協会 2007年3月 1680円
特集は、「自傷、自死」。「特集にあたって」(斎藤学)「自殺防止と遺族ケアを考える」(高橋祥友)他

思春期臨床の考え方・すすめ方 新たな視点・新たなアプローチ

鍋田恭孝/著 金剛出版 2007年4月 3940円
不安、混乱という言葉が思うようかぶ思春期の心理。時代を反映しやすく、変容が著しいともいう。また、治療的アプローチも日々新たなようになっていくようだ。本書は、思春期臨床で出会う重要な基礎理論と最新のアプローチを網羅的に紹介した基本書。



あしたはきつと転機 のコーチング

守尾朋子/著 文芸社ビジュアルアート 2007年3月 892円
コーチングとは「自発的なコミュニケーションを促す技術」のこと。自分の中にある答えを引き出して進んでいく、ということ。

カウンセリングガイドブック

倉光修、桑原知子/著 岩波書店 2007年2月 2940円
カウンセリング(心理療法)とは何で、どのようなものなのかのガイドを提供した本。第一部は、カウンセリング一般のプロセスについて、第二部は、子ども、神経症、身体化(症状が身体に現れること)などの問題のカウンセリング過程の解説。

(セクシュアリティ)

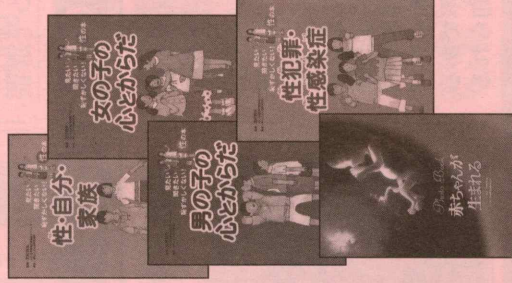
医療・看護スタッフのための LGBTI サポートブック

藤井ひろみ、桂木祥子、はたさちこ、
筒井真樹子/編集執筆 メディカ出版

2007年3月 2310円

LGBTIとは、Lesbian (レズミアン) Gay (ゲイ) Bisexual (バイセクシュアル) Transgender (トランスジェンダー) Intersex (インターセックス)の頭文字。それぞれの人たちはどのような状態で、何が大変なのかを、わかり易くまとめている。

医療・看護現場のスタッフ向きに書かれているが、それ以外の人も大変タメになる。



北村邦夫、(社)日本家族計画協会クリニック/監修
WILLこどもの知育研究所/編著 金の星社 2007年3月 2940円

① 性・自分・家族

思春期の子どもたちが感じる性の悩み、家族のことなどを、マンガ、コラム、Q&Aで解説

② 女の子の心とからだ

女の子が、自分の体の変化を知り、肯定的に受け止められるように

③ 男の子の心とからだ

男の子が、カラダの変化について、学び、肯定的に受け止められるように

④ 性犯罪・性感染症

性感染症(STD)、エイズ、性犯罪など、知っておかないといけないことがいっぱい

⑤ 赤ちゃんが生まれる

1mmにも満たない精子と卵子から生命は始まり、受精し、成長して産声をあげる。その神秘的な過程をカラー写真をふんだんに使って呈示

ハニー&ハニーデラックス 女の子どうしのラブ・カップル

竹内佐千子/著 メディアファクトリー 2007年2月 997円
女の子どうしのラブ・カップル、サチコとアサコの恋愛生活を描いたマンガ。「こういう世界もあるんだ」と知ってほしいとは、著者の弁。

子どものつばやきから始まる親子性教育 うちの子って変!?

黒瀬久美子、黒瀬清隆/著
明治図書出版 2007年1月 1995円
「性」について、幼児期のうちから話し合い、性の自己コントロール力の基礎を身につけていくことをめざした本



親子共学 子どもに伝えたい大切なこと

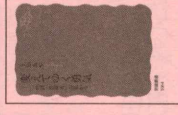
村瀬幸浩/著 スタジオ・オス
2007年3月 2310円

親が先に読み、DVDを見て、納得したら子どもにも見せてくださいと著者はいう。「性」について親が子どもに伝えることの大切さ、親がもっと知っておきたいことをわかりやすく解説。「息子へ」「娘へ!」という2枚のDVDがついている。



変えてゆく勇氣 「性同一性障害」の私から

上川あや/著 岩波書店 2007年2月 777円
27歳で「男性」をやめ「女性」になった著者。しばらくは過去を伏せて女性として生きてきたが、「戸籍の性別変更」の制度を確立しようという区議会に立候補し、当



選する。自身が書いているごとく、「男性」から「女性」へ、「沈黙」から「発言」へ、「孤立」から「ネットワーク」へ。当事者の話には説得力がある。

トランスがわかりません!! ゆらぎのセクシュアリティ考

ROS/編著 迫共、今将人/著
アットワークス 2007年3月 1680円

「トランスジェンダー」について、その実情を「からだを語ろう」「ゆらいでいくこと」「これからどうする?」の3章に分けて説明。「トランス」という言葉だけでなく「?」の中、「平易にわかりやすく」を心がけた記述がされている。性のあり方は、変化し、揺れ動くもの。



SEXUALITY No.30 性教育実践2007

エイデル研究所 2007年4月 1800円
小学校低学年から、中学、高校の性教育、障害児教育、地域と学校の連携など、年代別、ケース別に様々な実践例の提示や理論展開がなされている。

SEXUALITY No.31 学校・家庭・地域とつながる

エイデル研究所 2007年4月 1500円
特集は「学校・家庭・地域とつながる」。保護者・地域とつながる性教育実践を提唱



〔文学・エッセイ・芸術〕

たまには、時事ネタ

斎藤美奈子/著 中央公論社 2007年1月 1365円



『婦人公論』に2001～2006年、連載され好評だったコラム「女のニュース 男のニュース」をまとめたもの。アマチュア目線で書いたというが、この6年をひと言でいうなら「新たな対立構造の顕在化」という。2006年11月時点での追記もある。筆者のものごとの捉えかたやニュースの読み解き方には、興味をそそられる。

『婦人公論』にみる昭和文芸史

森まゆみ/著 中央公論 2007年3月 987円



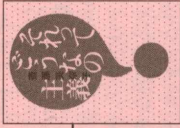
創刊90周年を迎えた『婦人公論』。現『婦人公論』の評価はさておき、主張のはっきりした良質の雑誌として、ファンも多かった。その代表的女性誌を「昭和文芸史」という視点からまとめたのが本書。良き書き手を得て、谷崎潤一郎、松本清張、有吉佐和子ら23人のそうそうたる人々の作品・作家解説が、『婦人公論』の伝統を背景に展開されている。文芸好きには、たまらない一冊。

鐘 第19号

大阪女性文芸協会/著 大阪女性文芸協会 2007年2月 525円
第24回大阪女性文芸賞が発表になっている。今年は梅東セラの「連絡コイル」

それってどうなの主義

斎藤美奈子/著 白水社 2007年2月 1575円
“ここ10年ほどの著者へのエッセイが加筆され1冊に、『それって、どうなの?』とばかりに、社会のあらゆる現象に切り込み、違和感をスルドク表明。



イングリッド・フジコ・ヘミング 私が歩んだ道、パリ

イングリッド・フジコ・ヘミング ぴあ 2006年12月 1680円
“奇跡のピアニスト”といわれるフジコ・ヘミングが、パリの三度の新居で、今までの人生を語る。パリのしとりとした趣ある写真が挿入されている。

仕事とセックスのあいだに

玄田有史、斎藤珠里/著 朝日新聞社 2007年1月 735円
『AERA』で実施した20歳代～50歳代の男女800人の調査を経済学者とジャーナリストが分析。職場の雰囲気とセックスレスには、深い関係があるという結論がでた。職場でのセックスを推奨している本ではない。マジメに仕事とセックスと少子化を考えてみようという本

母ちゃん オンマ

江宮隆之/著 河出書房新社 2007年2月 1785円
つらい満州での少女時代を経て、韓国で133人もの孤児を育て上げた永松かずの生涯を描いた小説。実話をもとにフィクションも加えてある。

楊貴妃になりたかった男たち

武田雅哉/著 講談社 2007年1月 1785円
中国の歴史は女装に身も心も捧げた男たちで満ちているという。異性装も含んだ異装をする人々を「服妖」というそうだが(びったりの漢字!)要するに、これからおこるであろう奇異な事態の前兆としての「モンスター」のこと。

菜園家族物語 子どもに伝える未来への夢

小貴雅男、伊藤恵子/著 日本経済評論社
2006年11月 2940円

ベートーヴェン<不滅の恋人>の探究

青木やよひ/著 平凡社 2007年1月 1260円



「私の天使、私のすべてで、わたし自身よ」とベートーヴェンが記した、く不滅の恋人>は誰か。音楽史上、実に多くの論争をよんだきたこの謎に、世界で初めて正解を出したのが著者。エコロジカル・フェミニストの主唱者として知られる著者であるが、ここにまで至ったのは著者がフェミニズムを学んだからだという。それまでの論者の考察が、女性の視点を欠いていたのだと。

ナイトメア 心の迷路の物語



小倉千加子/著 岩波書店
2007年3月 1575円

作家に突然届いた「ナイトメア」(悪夢)と称する女子学生からの手紙。父、母、兄の關係の中で揺らぐ女性の姿をあぶりだす。ジェンダー心理学者として女性の心理を分析してきた著者が書いたフィクション。現代女性の心の闇に、読者は自らを見るかも。

ロハスな生活をしている家族の物語ではない。終わりのなき競走をやめ、家族小経営のもつ醜れた側面を再評価しつつ、それを現実の社会に位置づけていこうとしている提言書である。

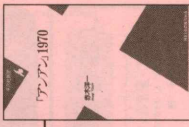
二〇世紀女性文学を学ぶ人のために

児玉実英、杉野徹、安森敏隆/編
世界思想社 2007年3月 2415円
それまでの世紀とは比較できないくらい格段に女性作家が活躍した20世紀。本書では、20世紀の80人の女性文学解説をならべ、20世紀女性文学をキチンと論じようとしている。



「アンアン」1970

赤木洋一/著 平凡社 2007年1月 777円
1970年創刊。「女性誌の時代」をリードした「アンアン」をつくった人々と雑誌誕生の地、六本木を描いている。日本が加熱し、うなっていた時代の、東京のクリエーターたちの物語。



球体のドラマ

小澤満恵/著 文芸社ビジュアルアート
2007年3月 945円
看護学校へ入学した珠恵が、医師よるセクハラや級友のいじめにあいながら成長していく物語。



晶子、愛をうたう 劇でみる、らいてう・わか・菊栄との母性保護論争

阿笠清子/著 梨の木舎 2007年2月 1575円
「晶子、愛をうたう」山の動く日來たれ」という与謝野晶子をテーマにした2本のシナリオが掲載されている。各地の女性センターなどで上映され、好評を博しているという。



少女マンガ ジェンダー表象論 <男装の少女>の造形とアイデンティティ

押山美知子/著 彩流社 2007年2月 2310円
日本の少女マンガにおけるジェンダー表象を<男装の少女>を切り口として、解説。手塚治虫「リボンの騎士」、池田理代子「ベルサイユのばら」などのヒロイン像の持つ意味は? 日本の少女マンガにおけるジェンダー批評分析だといってよい。



マリオネット★デイズ

篠原まり/著 ポプラ社 2006年12月 1365円
マリオネット(=母親のあやつり人形)だった主人公が自分を取りもどすまでの物語

『女性映画がおもしろい』2007年版 シネマライブラリーVOL.5

小藤田千栄子、林冬子、松本侑壬子、吉田真由美、大竹洋子/著
ハル・ウィメンズ・オフィス 2007年2月 1260円
07年版ができました。2006年に日本で劇場公開された女性監督による映画の中からおもしろいものを紹介、解説。ベスト5もあげられている。女性を描いた男性監督の作品も。

ブロークン・ガール 美しくこわす少女たち

金原由佳/著 フィルムアート社 2007年4月 1890円
未成熟でとらえどころがなく、破壊的で扱いにくく、感情過多、しかし、確実に新たな地平線を切り拓いている、そういう“ブロークン・ガール”を想起させる映像作品を収録。『さくらん』『マリー・アントワネット』『ハバベル』など。

鶴見和子 遺言 覚えてのち元ま

鶴見和子/著 藤原書店 2007年1月 2310円
日本の代表的知性、内省的発展論の鶴見和子さんの「遺言」。巻頭の「姉・鶴見和子の病床日記」(内山章子)は、壮絶。その他、最終講演、思想、時論の章立てで、生涯の主張が展開されている。

女学校と女学生 教養・たしなみ・モダン文化

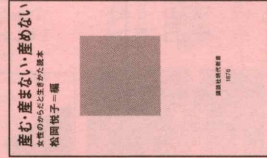
稲垣恭子/著 中央公論社 2007年2月 819円
旧制高等女学校と女学生は、戦前の女性教養者を表象している。「教養、たしなみ、モダン」に代表される女学生の文化の生態を、実証的に検証したのが本書。

家庭の秘密 記憶と創造の行為

アネット・クーン/著 西山けい子/訳 世界思想社 2007年4月 1995円
著者のマネット・クーンは、フェミニズム的映像分析が専門。本書では、自分の子どもたちの時代のアルバムを取り上げている。極めて私

産む・産まない・産めない 女性のからだで生きた読本

松岡悦子/編 講談社 2007年1月 765円
妊娠、出産のハウツー本ではない。「生む力」をめぐって女性の体におおるものもろろを「リプロダクション」ととらえ、からだや医療のことだけでなく、生活や仕事、勉強などどう関係するかを総合的に考察した本である。濃い内容が平易に書かれてある新書本。若い人々に是非。



がんging マイウェイ 経験をプラスに変えてきた私の闘病Q&A

藤本真知子/著 同時代社 2007年1月 1500円
“がんging”とは、治るかもしれない、治らないかもしれないという状況で生きていること。本書は、がんgingしている著者の心の動きや生活をつづった記録



図解 女性だから気になる病気 セルフチェックでからのSOSに気づく!

井尾裕子/監修 PHP研究所 2007年4月 1365円
女性の体のトラブルのサイン、自分の体をちゃんと知ろう、婦人科と上手につきあおう、女性特有の病状と症状を知ろうなど。

子宮力アップレシビ 婦人科系トラブルを解消!

池下育子/監修 (株)コナミデジタルエンタテインメント

私のために戦うな

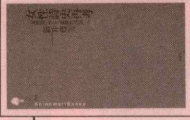
板坂耀子/著 弦書房 2006年12月 1575円
赤毛のアン、トロイのヘレン、連合赤軍の永田洋子など、文学や歴史に登場した女性たちの性と愛の姿を読み解き、著者の体験や視点を与えて解説。

友だちの作り方

中山千夏/著 河出書房新社 2007年3月 1575円
芸能界、出版、マスコミの世界、政界、社会運動の世界などで、長い経験をつんできた著者が説く「友だちをつくる方法」

女性詩史再考 「女性詩」から「女性性の詩」へ

新井豊美/著 詩の森文庫 2007年2月 1029円
サブタイトルでいうように、「女性詩」と「女性性の詩」とは違う。本書が扱うのは、パラダイム変容をおこした「女」の多様性を描く詩。



智恵子と生きた 高村光太郎の生涯

茨木のり子/著 童話屋 2007年4月 1313円
没後1年を機に、茨木のり子が生前書いた詩人の評伝がシリーズとして出版された。高村光太郎についての本書では、光太郎のことを、『智恵子抄』で智恵子の狂気の時のみっともなさや愚痴を押し殺してしまった、男性的で古武士のような人だったと評している。

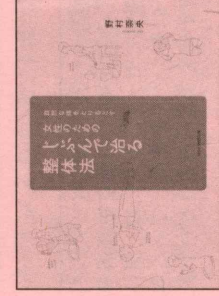
パワー・ブック

ジャネット・ウィンタートン/著 平林美都子/訳 英宝社 2007年4月 2520円
「ハードドライブ」「ドキュメント」「表示」「アイコン」など、目次(ここではメニューという)が示す章立てには、サイバー世界の用語がちりばめられているのが、まず目につく。それもそのはず、この本は、アリというサイバー・ライターの、サイバー上に創作する物語なのだ。現実とおとぎ話が交錯する奇想天外ともいえるべき物語の進行にびっくりしりつつ、読み進むと・・・



(からだ)

女性のためのじぶんで治る整体法 自然な体をとりもどす



野村奈央/著 ソニーマガジンス 2007年3月 1500円
大切なことは、「自分の中の自然を取り戻すこと」。

女性が持つ子宮の力を活発にし、健康な身体と心をつくろう。

女性のための 病氣&名医バイブル

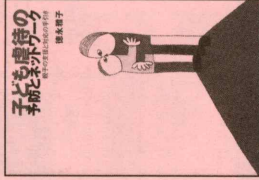
メディカルDomani 小学館 2007年 1000円
大判でカラフル。婦人科系から心の病氣まで、写真、イラスト、文で解説、名医リストも。



乳がん患者ケアガイド

阿部恭子、矢形寛/編 学研 2006年12月 2100円
最新の乳がん情報を、かなり詳しく説明したムック本。乳がん患者支援グループ、学会などの情報もついている。

子ども虐待の予防とネットワーク 親子の支援と対応の手引き



徳永雅子/著 中央法規出版
2007年2月 2940円

長年子ども虐待問題に取り組んできた著者が、子ども虐待の基本的知識から発見、介入の仕方まで解説

男女共生社会の大学 文科省セクハラ規定から大学評価へ

秦澄美枝/著 社会評論社 2007年2月 2940円
日本で初めて大学が敗けた清泉女子大学でのセクハラ訴訟と二次被害訴訟の勝訴、文部省による指導などをたどりながら、大学犯罪とはどういうことかを示し、大学運営への提言をする。

フィリッピーナはどこへ行った 日本から消えた彼女たちの「その後」

白野慎也/著 情報センター出版局
2007年3月 1680円
2005年3月、法務省令の実施要綱が急に厳しくなって、フィリピン人タレントの入国が難しくなった。締め出された彼女たちのその後の生活を追っている。

家族の変容と暴力の国際比較

古橋工ツ子/著 明石書店 2007年1月 3990円
DV、児童虐待、高齢者虐待について、中国、日本、英国、オーストラリア、ドイツ、米国、スウェーデンなどの実情と対策を比較。「家族内暴力」について、各国に共通する悩みも知ることができる。

児童虐待 改訂版 その現状と刑事法的介入

林弘正 成文堂 2006年12月 4200円
児童虐待を刑事法の側面から考察。児童虐待防止法の制定と児童虐待事業に対する量刑判断の変化をふまえて、改訂版が出た。

いじめ・虐待そして犯罪の深層 失われていく共感性

町沢静夫/著 丸善 2007年1月 1680円
「またか」のレベルになってしまったいじめ、虐待、犯罪。共感能力の低下によるのではないかと著者はいう。「共感能力」とは「人の気持ちを想像する力、能力」。

文化としての暴力

服藤早苗、赤阪俊一/編 森話社 2006年12月 2625円
ヒロシマ、ナガサキに落とされた原爆を「善き暴力」と主張する人がある。国によっては「自爆テロ」は「聖戦」である。圧倒的権力に立



モノと子どもの戦後史

天野正子、石谷二郎、木村涼子/著
吉川弘文館 2007年3月 2940円
戦後の生活の中で、「モノと子ども」はどのように相互に交渉しているのか。「子どもが変わった」というけれど、「あるべき子ども像」を基準とせず、無生物の「モノ」を通してながめるとどうなのか。オムツ、子ども部屋、おやつ、マンガなど、いろいろな「モノ」が登場する。ユニークで興味深い戦後史である。

〔セクハラ・暴力〕

ポルノグラフィと性暴力 新たな法規制を求めて

中里見博/著 明石書店 2007年3月 2625円



ポルノグラフィがもたらす性被害を防ぐための法規制のあり方は? この古くて新しい課題に、本書は「ポルノグラフィをのものをなくすのではなく、ポルノ被害をなくすことに法規制の目的を変える」ことによって答えようとしている。いまだに核心的なアプローチができていないこの分野に、貴重な一冊が加わった。

ち向かう「市民の暴力」は是非か。「暴力」を論じることとは難しい。本書には表象としての暴力、歴史としての暴力について、興味深い論考が並んでいる。

人として強くやさしく 子どもたちを被害者にも加害者にもしないために

NPO法人SEAN NPO法人SEAN 2007年3月 2100円
虐待で命を失う子どもたち。殺人の加害者となってしまふ子どもたち。根っこは同じ「暴力」をばらしている社会のあり様。この状況をなんとかしようと、草の根NPO法人が実施している「人権教育プログラム」の紹介と報告が出版された。

カルト宗教 性的虐待と児童虐待はなぜ起きるのか

紀藤正樹、山口貴士/著
アスコム 2007年3月 1890円
第一部は、カルト問題一般の基礎知識。第二部は、アメリカで公表された文獻の翻訳。カルト集団で起きている児童虐待、人権侵害ははおおっておけない。それは「自己責任」で片付く問題ではない。

「虐待」は愛から起こる

雷田富士也/著 河出書房新社 2007年3月 1575円
愛の反対は「無関心」。虐待は愛がないから起こるのではなく、愛していても起こるという。大切なのは、目の前の子どもとの関係性を歪めさせないことと、著者。

職場のいじめ あなたの上司はなぜキレる

金子雅臣/著 平凡社 2007年3月 735円
長年、労政事務所で労働相談に携わってきた著者が、職場のいじめの背景とその撃退法について書いている。

子ども虐待という第四の発達障害

杉山登志郎/著 学研 2007年5月 1785円
著者の勤務先である、あいち小児保健医療総合センターにおける事例をもとに、虐待は発達障害を呈しやすいと主張。わかりやすく説明している。

〔女性史・歴史〕

日韓歴史共通教材 現代まで

日韓交流の歴史 先史から



歴史教育研究会(日本)、
歴史教科書研究会(韓国)/編
明石書店 2007年3月 2940円
同じ内容の歴史を日本と韓国の学生が学ぶために、両国の学者、教育者が共同で歴史教材をつくった。先史以来、友好的に、時には葛藤の中で創りだしてきた歴史の真実を、まずは正しく認識なくてはならない。

女性史の中の永瀬清子 戦前・戦中篇

井久保伊登子/著 ドメス出版 2007年1月 3675円
1906年から95年まで、20世紀の大半を生き、多くの作品を残した詩人、永瀬清子の戦前、戦中の評伝。

日本古代女性史論

義江明子/著 吉川弘文館 2007年2月 9975円
日本古代の女性はどのように生きていたのか。生活・祭祀、家族から社会的に考察

近世の女性性相続と介護

柳谷慶子/著 吉川弘文館 2007年3月 9450円

江戸時代の女性の武家相続、大名の奥向、姉家督、介護を支える家族の役割などを考察。近世の家族のあり方を論証する。

近代日本女性史講義

石月静恵/著 世界思想社
2007年4月 1680円
政治、教育、労働、生活、運動、思想の分野別に、近代の女性の歩みを記述。近代女性史概説書としてもテキストとしても役立つ。「女性の主体形成の歴史を把握できるように考慮した」とは著者の弁。



〔自伝・評伝〕

鉄条網に咲いたツルバラ 韓国女性8人のライフストーリー

パク・ミンナ/著 大畑龍次/監修
同時代社 2007年2月 2625円
1987年の韓国民主革命を導いたのは、女性労働運動であったことは知られている。多くの女性労働者が立ち上がり、犠牲にもなったわけだが、本書で扱っているのは、そのうちの8人のライフストーリー。おしよせる新自由主義的グローバル化の現状を日韓で分ちあちあうためにも是非。



母の乱 無慈悲と慈愛

沖藤典子/著 文芸社
2007年3月 1575円
37歳の時、8人の子を残して出奔した母。母の再婚後生まれた著者は、母の若き日の姿を求めて、異父姉たちに会う。母はなぜ奔ったのか。人生を真つ二つに割ったような母の無慈悲と慈愛がせまってくる。



笑って泣いて歩いて書いた 女性ジャーナリストの五〇年

金森トシエ/著 ドメス出版

2006年12月 1890円

女子専門学校時代に見合い結婚、拓殖大学に初の女子・主婦学生として編入、読売新聞初の女性記者に、そして退職後は神奈川県立婦人総合センターに10年…と歩んだ著者。少数であった女性記者たちが社を超え連帯し、「新聞の女性表現」について意見をまとめたこと、夫の看護、死別、母親の介護など、とても興味深い話題がたくさん記されている。



福西志計子と順正女学校 山田方谷・留岡幸助・伊吹岩五郎との交友

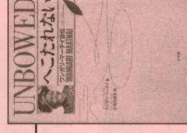
倉田和四生/著 吉備内出版 2006年12月 1890円
明治初期、備中高梁の地で順正女学校を興し、「女子の自立」と「女子教育」の実践のために生涯を捧げた福西志計子の評伝。

役立たずのジーナ

ジーナ・フレンチ/著 今泉敦子/訳
イースト・プレス 2007年2月 1680円
フィリピンの貧しい山村に生まれ、14歳で結婚、イギリスへ。27年間、夫と親に虐待され続けてきたジーナ。ついに夫を殺してしまふ。イギリス全土に衝撃を与えた事件である。そのジーナの手記が、このたび翻訳された。

へこたれない ワンガリ・マータイ自伝

ワンガリ・マータイ/著 小池百合子/訳
小学館 2007年4月 2310円
アフリカダグリーンベルト運動でノーベル平和賞を受賞。「もったいない」の発言で日本にも大いに知られている、ワンガリ・マータイの自伝。1940年ケニア、ナイロビ生まれ。2002年からケニア国会議員。翌年にはケニア環境大臣。



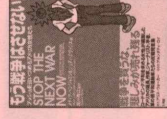
〔平和・開発・エコロジー〕

あなたのTシャツはどこから来たのか？
誰も書かなかったグローバル化の真実

ピエトラ・リボリ/著 雨宮寛、今井章子/訳
東洋経済新報社 2007年1月 2100円
1枚6ドルのTシャツが自分の手元に届くまでを材料に、グローバル化経済を解説。グローバル化は徹底的な市場競争により支えられているわけではなく、生々しい国際政治の駆け引きに左右されていることを実証。

もう戦争はさせない！ プッシュを追いつめるアメリカ女性たち

メデア・ベンジャミン&ジョディ・エヴァンス/著
尾川寿江/監訳 文理閣 2007年2月 1890円
イラク戦争に踏み切ったブッシュ大統領に抗議し、平和に向けた世界世論を作り上げようとがんばる「コードピンク」の女性たち。アメリカの議員、ジャーナリスト、学者、アクティビストたちの声を集め、出版した。それを日本の活動家たちが訳し、緊急出版したのが本書。アメリカの運動の手法もかいまみえて、興味深い。



つながってひろがる 被爆者のおもいを受けつぐ学生たち

佛教大学社会福祉学科黒岩アプターゼミ
クリエイツかもがわ/発行 かもがわ出版/発売
2007年3月 840円
仏教大学社会学部社会福祉学科のゼミ生が1年を通して学んだ原爆や平和について、冊子にまとめた。原爆展を開催したり、被爆者の聞き取りをしたり、絵本をつくったり。若者たちはたくましい。



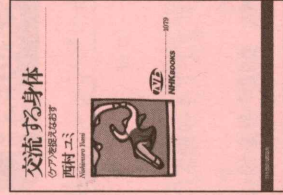
開戦65年に想う あごら309号

あごら新宿/編 BOC出版部 2007年1月 1785円
堀場清子、中村道子、滝島典子など。

〔高齢・福祉〕

交流する身体 <ケア>を捉えなおす

西村ユミ/著 日本放送出版協会 2007年2月 1124円



病院で<ケア>する側にたつ看護士からの聞き取りをもとにして、臨床現場での<ケア>がどのように成り立つのかを探っている。死や病に向かう“専門家”として“慣れている”ようにも見えない<ケア>する者>であるが、一歩ふみこんでみると、<ケア>する者>とくされる者>の交流から関係性が生まれ、複雑であることがうかがいあがってくる。

年金生活これで安心

大庭恵三子/監修 小学館 2007年3月 1470円
「年金分割」の制度が始まる。どうなる？ こうしてみると、やはり、「専業主婦」は優遇されている？

わたしの介護ノート 介護で悩むあなたへの応援メッセージ

読売新聞社生活情報部/編 生活書院 2006年12月 1680円
13人の著名人が、実際に体験した家族介護について、そのときの状況やそれぞれの苦しさ、仕事と家族への思いなどを語っている。介護の相手も、認知症の義母、がんの母、脳そうそくの夫、乳がんの妻など様々。

妹になってしまった私の母さん 母と私の介護日記

高玉多美子/著 駒草出版 2007年3月 1470円
アルツハイマー病と診断された母を著者は介護する。孤独な介護の日々、母は日記を書き始める。娘は母の日記により認知症を理解し、孤独感を癒していく。

〔資料・雑誌〕

女性・婦人問題の本 全情報2003-2006

日外アソシエイツ/編 日外アソシエイツ/発行
紀伊国屋書店/発売 2007年5月 26000円
女性・婦人問題に関する図書9041冊の目録

インパクション156号

インパクト出版会/編 インパクト出版会
2007年2月 1365円

特集1：死刑—新たな段階へ 特集2：ここまでの「国民保護」体制。ドーンセンターで開催された「コミカル&シニカル」の報告も。

季刊ピープルズ・プラン 37

ピープルズ・プラン研究所 2007年2月 1365円
特集1：米軍再編とたたかう世界の民衆 特集2：安倍政権の暴走にストッパー

共同参画21 No.29

内閣府/編集協力 ぎょうせい 2007年3月 600円
特集1：科学技術分野における男女共同参画 特集2：女性の社会進出の促進 29号まで続いた本誌であるが、内閣府の広報のあり方の変更により休刊する。5月号からは別の広報誌に引き継がれる。

ミニコミ・ミニコミ

ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報の抜粋
「ミニコミ・ミニコミ」全情報は別刷りしています

<単発もの> (新着)

■ 均等待遇かるた よくわかる解説集つき

均等待遇アクション21事務局
2006年12月 840円
「かるた」をしながら「均等待遇」について学べます。

■ 手帖 2007.4~2008.3

手帖作成委員会 2007年3月 900円
憲法からSEXまで、12本のテーマにそって書き綴った言葉がちりばめられた手帖。4月はじまりです。

■ わたしもあなたも★みんな活き活き (啓発パンフレット)

NPO法人 SEAN 2007年3月 50円
子どもたちと共に、ひとりひとりが活き活きと生きていける社会にするためにできることは何か。A3版1枚 フルカラーのパンフレット。

■ 脱暴力を呼びかける

男のための脱暴力グループ
水野阿修羅 2007年4月 840円
2003年から2005年にかけて25回にわたり人民新聞に連載された「非暴力のすすめ」をもとめたブックレット。巻末に酒井隆史氏との対談「脱暴力は自立と混ざり合いの中から」も収録。



■ 子どもの回復力を支えるために フィリピンの子も虐待・搾取に取り組むNGOから学んだこと

エグバット・ジャパン/関西 2007年1月 735円
2005年フィリピンスタディーズアワーの詳細報告。

■ DV被害当事者に対する警察対応アンケート 実態と課題についての全国調査結果

北海道シエルターネットワーク 2007年3月 1050円
2006年7月から8月にかけて、DV被害当事者を対象に実施されたアンケート調査の結果報告と考察。

■ やったらできた!! 「協働」実践 子育て支援をエンダーの視点で—

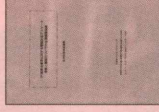
NPO法人 SEAN 2007年3月 840円
2006年度高槻市協働活性化モデル事業実施報告書。

<シリーズもの> (新着)

■ WAI 3 (わいわいわい) 季刊

第19号 特集：日本映画の男性像/第20号 特集：うつぶちのならず者/第21号 特集：仕事 メンズリブ例会報告も連載中

わい3編集部 味沢道明/発行人
2006年11月・2007年2・5月 420円



(ミニコミ取扱い希望の方は、お問い合わせください。)

HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

見てく
ださい

【DVD】わたしのニキ 2007年作品

ニキ美術館サポーターズ・クラブ

制作：稲村恭子

4200円/個人価格 31500円/ライブラリー価格

那須高原のニキ美術館に魅せられて訪問記を書いたのは2年前のこと。それをまたまた目にした四宮鉄男さん(浦河のべての家のビデオの監督)にニキのビデオを作りませんかといわれてニキ美術館のサポーターズクラブを立ち上げ、制作資金のめどもたたないのに走り出しました。1年後、父親からの性虐待のサバイバーであったニキ・ド・サンファルの、射撃絵画から陽気なナナにいたるまでのパワフルな作品群と那須の美しい四季、ニキの版画に雷に打たれたように恋をして美術館を建ててしまった増田さんの人生が交錯し響きあう濃密で美しい作品がうまれた。

90分のDVDは女性学やアートの授業に最適。人を幸せにする空間を作りたいと願ったニキの思いが息づき、観る人をエンパワーしてくれる。この作品を図書館や女性センターのライブラリーにぜひ置いていただきたい。

稲村恭子(「くらしと教育をつなぐWe!」編集長)



研修案内 この世から性暴力をなくすための活動

●企画期間:2007年8月3日~10日

●会場:カナダ国バンクーバー市ブリティッシュ・コロンビア大学内で開催

●研修費用:現地集合・現地解散。25~30万円程度(カナダドルの動きによる)。簡素な宿舍付ですが航空運賃は含まれません。

●参加募集:25人前後。性暴力被害の現場で働く人や、支援する立場にある人々。女性としての人生を共有できる人。

●女性の立場に立つカナダの援助の現場で働く方々と共に学びあう研修です。通訳者が同行し、日本語で研修を進めます。研修は、日本の現状にも詳しいリンダ・ジンガロさんがカナダ側の全体進行を担当し、現場の活動者を講師として招き、質疑応答や自由討論も含まれます。今回のテーマは「活動をつなぐ」。自分のあり方と運動の作り方にも焦点を当てます。

●英語が苦手な方もどうぞ。夏のバンクーバーは素晴らしい気候で、大学構内から海も山も見えます。研修終了時刻から暗くなるまでに4時間ほどあり、街歩きや公園への散歩も楽しめます。関心ある方はご連絡ください。joyful@joy.ocn.ne.jp

共同企画:すぺーすアライズ

(FAX 047-320-3553 TEL047-376-6556 担当:麻島澄江)

NPO女性の安全と健康のための支援教育センター (FAX 03-5684-1412)

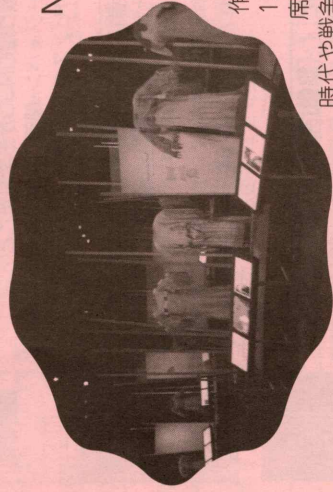
アメリカのミュージアムにはフェミがいっぱい

西川知佐 (ウィメンズブックスストアゆう)

ゴールドデンウィーク中のワシントンD.C.&ニューヨーク旅行。人も服装も生活も、本当に多様な国でした。足を運んだミュージアムの中からいくつか印象深かったものをご紹介します。「ワシントンD.C.&ニューヨークのミュージアムには、フェミがいっぱい!」でした。

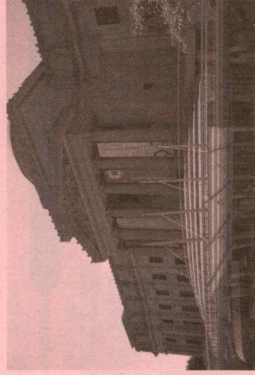
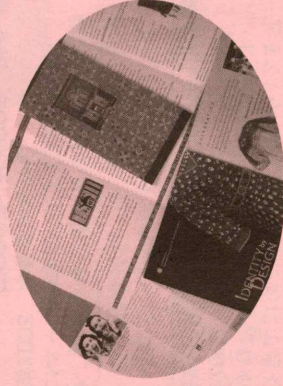
The Textile Museum (ワシントンD.C.)

インディアン女性の布や刺繍などの常設展示とセントラルアジアの移動式家屋を飾る布の特設展示がありました。使い込まれた模様の細やかな美しい布。どんな想いを込めて織っていたのでしょうか。このミュージアムは、私設財団の運営で、何と入場無料。図書館も付随しています。このへんがアメリカ!



National Museum of the American Indian (ワシントンD.C.)

特設展示のテーマが "Identity by Design: Tradition, Change, and Celebration in Native Women's Dresses". 19世紀から現代に至るアメリカ・インディアンの女性たちが作っていた服が展示されていました。白地に青や赤のカラフルな色合いのビーズで模様を作っていて、それが鮮やかで素敵でした。100年以上前、この鮮やかな服を着て祝賀の席でダンスを楽しんだのは男性だけ。それが時代や戦争のため変化してきたそうです。マイノリティのミュージアムがあり、その中で女性の何かを取り上げていることはすごい。



Brooklyn Museum (ニューヨーク ブルックリン)

展示のタイトルは "Global Feminisms".

うそっ!!! このテーマでいいの〜? インパクト大!

30代から40代の世界各地の中堅・若手・女性アーティスト88人の作品の展示。日本からは、沢田知子さんの作品が出ていました。地元の人らしき女性や男性、高校生の団体(15人くらい)もいて、自分の意見を言いながら鑑賞していました。こういう作品を楽しみ、鑑賞している人が沢山いるのですね! 88人の作品を見終わるころには頭がはちきれそう。でも、心はいっぱい膨らんで、とてもいい気持ちでした。

編集長の著者インタビュー

「少女」の社会史 双書ジェンダー分析 17

今田絵里香 勁草書房 2007年2月 3465円

「少女」はどんなもので、どのようにして生み出され、どう意味付けされてきたのか。時代によってどう扱われ、どう変化してきたのか。憧れるにせよ反発するにせよ、多くの女性たちが影響されてきた(されざるを得なかった)「少女」に真正面から取り組んだ本が出版された。

近代家族を現実化させた都市新中間層の量的拡大によりもたらされた「少女」カテゴリー。女学校という学校制度により「少女」という期間が生み出され、『少女の友』などの少女雑誌によりそのイメージが確立されていく。近代家族における

著者インタビュー 第25回

『「少女」の社会史』の著者

今田絵里香さんに聞く

日本学術振興会特別研究員



——：「少女」を研究テーマに選んだきっかけは、何ですか？

今田：少女時代に受けた「少女へのまなざし」に、私自身がとまっていたからです。学校では、女子にも、男子と同じように勉強して学歴を獲得するようというメッセージが伝えられます。でも、その一方で、このまま男子と競争し続けても、雇用機会獲得や昇進では同じようにはいかないだろうという見込みも働くわけです。こうした、「引き裂かれた現実」にどう折り合いをつけるのかは、私にとって、とても重要な問題でした。

——：この本で扱っているのは、明治中期から敗戦までの期間ですね。

今田：はい。現代の「少女」イメージは昔のそれとはかなり違いますが、その源流は、近代の「少女」にあります。近代家族と学歴社会の枠組みを壊すことなく、しかし「少年」とは明確に区別される「少年ではないもの」としての「少女」像は、近代

「子ども」は教育と愛護を与えられる存在である。「子ども」と同じ同じ範疇に属するがゆえ、「少年」と同じように扱われるものの、しかし、「少年ではないもの」として区別されるのが「少女」なのだ、著者は分析する。

少女雑誌と、その読者による「少女」イメージの受容過程を詳細に検証し、「少女」の内実や変遷を綿密に、かつ平易な言葉で描き出した力量には引き込まれる。奥付にある30代前半という著者の年齢を見ると、「元少女」としては、「今後が楽しみ！」という一言を付け加えたいくなる。

と現代で共通しています。

——：逆に違う点は？

今田：戦前は男女別学の時代でしたから、少女どうしの特別の‘きずな’のようなものがありました。また、階層差もはつきりしていましたから、「少女」は都市新中間層文化の一部として、その階層のもつ魅力に彩られていました。「少女」の魅力の一つである「清純主義」も、現代のように‘純潔’の価値が失われていくと、別の形に変わってくると思われます。

——：それにしても、学術論文なのに平易に書かれていて、嬉しかったです。

今田：古典理論をひくよりも自分の言葉でしっかり書くように、指導教官の先生にすめられました。女性が研究者として生きていくとはどういうことなのか、身をもって教えていただいています。

——：今後は、どういう方向に進まれるのですか？

今田：戦後の「少女」の変遷について、分析していきたいです。現代のジェンダー構造の解明につながるかと。

——：どうもありがとうございます。次に上梓されるご本も、楽しみにしています！

(聞き手：森屋裕子)

書評

『女性の品格』(坂東眞理子著 PHP新書 756円)

のぐちあきこ(フリーライター)
元男女共同参画局長・坂東さんによる『女性の品格』。おおこれは必読本！とウィメンズブックストアゆうさんに行くと、売り切れ。取り寄せをお願いし、増刷待ちで数週間後にやっと手にしました。

「礼状を書く」「約束を守る」「手土産を持っていく」……ムムム、もう既に実践済み！「品格ある装い」「流行にとびつかない」……このテーマ、女

性ファッション誌でもよく特集が組まれています。「品格ある人間関係」「品格ある生き方」……女性だけでなく男性にも言えることですね。坂東さんは「人間の基礎力」とおっしゃっていますが……まあ、再確認はできました。



改めて考えました。坂東さんが『女性の品格』を書かれた意味って何だろう？「女性」を「男性」に置き換え、斜めから読んでみたら。3回転半くらいひねってみました。「女性としての品格は強さと優しさから生まれてくるのです」……でも「女性」であるがゆえのダブルスタンダードには逆に気をつけなければれ〜と、あえて私は付け加えたい！

最近、オーストラリアとNYを旅しました。あらゆる人種・文化などが共生し、価値観・考え方が混在、そしてさまざまな女性たちが思い思いの格好で街を闊歩する姿を目の当たりにして、「この国の女性の品格っていったい何だろう？」と考え込みました。

日本の官僚・男社会で働き続けてきた坂東さんに、次は『男性の品格』を書いていただきたい。日本の女性が社会に進出、活躍していくために、これからの世代の男性に向けて、従来の男性とは異なる価値観の提示を、是非よろしく願います。

ウィメンズブックス

WEBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックスストア 2・3・4月ベストセラーTOP5

- 1 人やまちが元気になるファシリテーター入門講座
ちよん せいこ/著 解放出版社 1575円
- 2 知らない恥ずかしい ジェンダー入門
加藤秀一/著 朝日新聞社 1365円
- 3 いのちのイメージトレーニング
田中美津/著 新潮社 420円
- 4 とびこえよ、その困いを
ベル・フックス/著 里見実/監訳 新水社 2940円
- 5 地図でみる日本の女性
武田祐子 木下禮子/編著 明石書店 2100円

女性性センター、
女性政策課、研究室、
図書館向けサービス

リストアップ、各種配本の迅速手配、
データ管理、コーティングなど

WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

(ゆう)刊社長日記 ゆう刊先代日記 ゆう刊あまちゃブログ更新中)

メルマガ発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録はinfo@womens-books.jpまでどうぞ

■'ゆう'だよ!

- ◎ この4月から「ウィメンズブックスストアゆう」も運営にかかわることになった「ギャラリーゆう」。5坪ほどの小さなスペースですが、絵画や写真、書道、陶芸、手芸、布などの展示の他、パネル発表やトークの会などにも使えます。
- ウィメンズブックスストアとギャラリーの間にあるのが、「フェアトレードショップゆう」です。こちらは、アジアの女性たちの自立を支援する目的で、彼女たちがつくった衣類や小物、雑貨、香辛料、お茶などを扱っていて、アジア女性自立プロジェクトの方がたが運営を担っています。
- ドーンセンター一階には、女性問題専門書店とギャラリー、フェアトレードショップがあるのです。たくさんの人たちが集い、本やアートを見ながら、こやかにしゃべりできる空間になったらいいと、いつも願っています。

(ウィメンズブックス編集長:森屋裕子)

店舗/ウィメンズブックスストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49 ドーンセンター1F

電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115

E-mail info@womens-books.jp

郵便振替口座 00900-5-309395

火～金：午前10時から午後7時

土・日：午前11時から午後6時30分

定休日：月曜 ドーンセンター休館日

中西豊子さん、国際ソロプチミストアメリカ日本中央リージョン賞を受賞!

中西豊子さん(ウィメンズブックスストア創業)が、『女の本屋の物語』(発行/ウィメンズブックスストアゆう)の出版を機に、国際ソロプチミスト協会から、表彰されました。今回の賞には、「女性のために変化をもたらす賞」との別名がついています。「ウィメンズブックスストア松香堂書店」で、女性情報を発信し続けた業績が認められました。

「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料：会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間900冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを満載した機関誌「ウィメンズブックス」を年4回お送りいたします。
- 会員のみなさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費(年度は4月から翌年3月・入会金は不要です)
 - 個人会員 3000円
 - 海外会員・団体会員 3800円

リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又はFAX注文表に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申込ください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。HPのご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

※ リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。

〈送料〉

- 個人会員 書籍代(消費税込み)が15000円以上の送料は無料
- 書籍代(消費税込み)が15000円未満の送料は上限300円

海外会員・団体会員 別途請求をさせていただきます

ギャラリー ゆうのご案内

ドーンセンター一階の隣のスペースに、「ギャラリーゆう」が誕生して1年半。この4月から、ウィメンズブックスストアゆうも、運営にかかわっています。

毎週、いろいろなアート系企画が開催されていますので、おたちよりください。

ギャラリーゆうでは、サポーター会員を募集中。ギャラリー使用の申し込みも受け付けています。

詳しくは <http://www.womens-books.jp/>



4月4日から5月13日に開催された「中国農民画展」

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でお寄せください。
次号の締め切りは2007年8月5日です(発行予定日2007年8月25日)

○ 自費出版承ります。ご相談ください。○